

2月16日(金)から

税の申告受け付けが始まります

◆市役所での申告受け付け

◆市・府民税：2月16日(金)～3月15日(金)(土・日曜日、祝日は除く)に受け付け。
※西支所は2月22日(木)まで

◆市・府民税申告書の送付

昨年、市・府民税の申告書を提出した人には、2月13日(火)ごろに申告書を送付します。届かない人や新たに申告が必要な人は、税務課(☎66・1026)へ連絡を。

◆公的年金を受給している人

公的年金の収入金額が年間400万円以下で、かつ、その他の所得が年間20万円以下の人は、所得税の確定申告は不要です(還付を受ける場合などは確定申告が必要)。ただし、次の人は「市・府民税申告書」を市役所へ提出すると、市・府民税が減額になる場合があります。控除の申告漏れがないよう注意してください。

◆市・府民税が減額になる人：市・府民税が課税され、年金の源泉徴収票に記載されていない社会保険料控除(納付書・口座振替で支払った国民健康保険料など)、医療費控除、扶養控除など各種控除の追加・変更がある人
※所得・控除の状況によっては、控除を申告されても税額が変わらない場合があります

◆市・府民税申告書への個人番号(マイナンバー)の記載

市・府民税の申告には申告者と被扶養者の個人番号(マイナンバー)の記載が必要です。また、個人番号を記載した申告書を提出する際は、申告者の本人確認と番号確認ができる書類の提示が写しの添付が必要です。

今年から市役所(赤れんがパーク)での所得税の申告相談・受け付けはあります。(注意ください。)

申告相談・受け付けの日程				
税区分	市・府民税 ※1		所得税・消費税	土地等譲渡所得・贈与税
受付会場	市役所本庁(1階ロビー)	市役所西支所	舞鶴税務署 ※2	
受付時間	9時～12時、13時～16時		9時～16時	
2月	16日(金)	●	●	●
	19日(月)	●	●	●
	20日(火)	●	●	●
	21日(水)	●	●	●
	22日(木)	●	●	●
	26日(月)	●	●	●
	27日(火)	●	●	●
	28日(水)	●	●	●
	29日(木)	●	●	●
3月	1日(金)	●	●	●
	4日(月)	●	●	●
	5日(火)	●	●	●
	6日(水)	●	●	●
	7日(木)	●	●	●
	8日(金)	●	●	●
	11日(月)	●	●	●
12日(火)	●	●	●	
13日(水)	●	●	●	
14日(木)	●	●	●	
15日(金)	●	●	●	

所得税・消費税の申告はスマホやパソコンでの申告を推奨しています

税証明書のオンライン請求が可能に

マイナンバーカードを使って、スマホやパソコンから税証明書の交付請求ができるようになりました。請求された証明書は後日郵送します。発行手数料と郵送料の支払いはクレジット決済です。申請から支払いまで、自宅でまとめて行えます。申請方法など詳しくは市ホームページで確認を。右コードからアクセス可。

【申請できる税証明書】
◆市・府民税課税(非課税)証明書◆所得証明書

【必要なもの】◆スマホ(マイナンバーカードの読み取りに対応しているもの。電子署名アプリ(無料)をダウンロードする必要あり)
◆マイナンバーカード◆クレジットカード(対応ブランド…VISA、Mastercard、JCB、American Express、Diners club)

【その他】マイナンバーカードの暗証番号を忘れた場合などは手続きできません。住民登録のある市区町村へ問い合わせを。

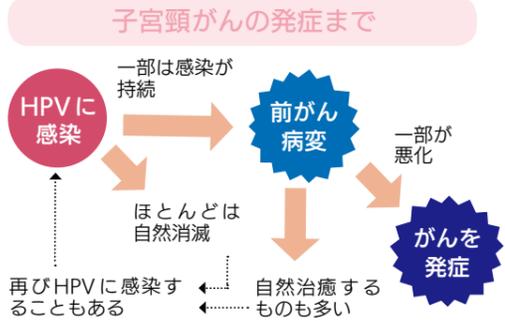
▶詳しくは、税務課(☎66・1026)へ。

※1…「郵送」での提出にご協力ください。また、スマホから市役所本庁での申告相談の事前予約ができます。希望者は右コードから申し込みを(定員あり)。詳しくは、税務課(☎66・1026)へ
※2…◆パソコンやスマホから国税庁ホームページ「確定申告書作成コーナー」(右コードからアクセス可)を利用し、申告書を作成できます。詳しくは、確定申告コールセンター(☎75・0801、音声案内「0」)へ
◆予約優先。LINEで事前予約ができます。右コードからアクセス可

マイ健康通信

子宮頸がんとは

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスが原因であり、性的接触により感染します。HPVは性別に関係なく感染するウイルスですが、その中でも性交経験のある女性の半数以上が、感染するといわれています。HPVに感染しても、約90%の人に



子宮頸がんの予防はワクチンと検診の両輪で

は免疫の力でウイルスが自然に消滅しますが、HPV感染が長期間持続した場合、数年以上をかけて子宮頸がんに行進することもあります。

日本では、年間に約11,000人が子宮頸がんになり、そのうち約4人に1人が亡くなっています。また、発症するのは20～30代の女性が多く、若い世代に多いがんといえます。

2つの予防方法

子宮頸がんの予防方法は2つあります。一つは、HPVの感染を防ぐことのできるワクチン接種を受けることです。13～16歳(中学1年～高校1年相当)の女性は定期接種として、市内の協力医療機関で、無料で受けることができます。

キャッチアップ接種は来年3月末まで

日本では平成25年4月からHPVワクチンの定期接種を行っています。接種後に全身の痛みや手足が動かしにくくなるなどの副反応の報告があり、同年6月から各自治体での積極的勧奨は控えられていました。

接種の効果が副反応のリスクを上回ることが認められたため、市は令和4年4月から接種機会を逃した人を対象にキャッチアップ接種を勧めています。詳しくは、市ホームページで確認を。右下コードからアクセス可。

【対象】平成9～18年度生まれの女性

【接種期間】来年3月末まで

【その他】対象者には、市からはがきを送付しています

【問い合わせ先】

健康づくり課(☎65・0065)



2年に1回の子宮頸がん検診を勧めています。

他人事にせず話し合いを

自身の健康を維持するため、決して他人事にしてはいけない子宮頸がん。これを機に、ワクチン接種、検診について家族と話し合ってみてください。

◆定期接種や検診の詳細は、市ホームページで確認してください。下コード(検診は左下コード)からアクセス可。

《健康づくり課》



INTERVIEW

性交関係を持つ前に接種を

子宮頸がんのワクチンは「感染予防」のものであり、そのためのものです。このことから、子宮頸がんは、唯一ワクチン接種で予防できるがんです。HPVに感染してからでは、ワクチンの効果を得ることができないので、性交関係を持つ前からワクチン接種することを推奨しています。

ワクチン接種は1回すれば終わりではなく、回数を重ねることが必要で、効果は上がります。最大で3回接種することができ、その効果は90%以上といわれています。国内でこの4年間にワクチン接種後の有害事象の報告はありません。接種を希望される場合は、ご家族と相談してワクチンの効果などを調べてから接種してください。



舞鶴医師会 会長 隅山 充樹 さん